



農作物生産における気候変動緩和策

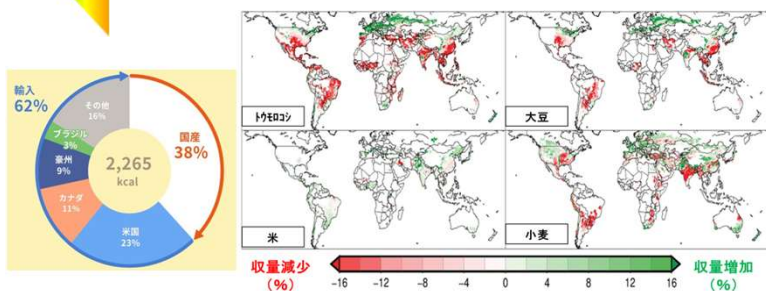
ー保全農法推進の提言ー

チーム名：気候変動対策

メンバー：村田 憲彦、山田 淳吾、山科 宏幸、鈴木 一眞、水野 薫

アドバイザー講師：薄井 智貴、村野 宏達、石井 陽佑

現状の把握



気候変動で穀物の収量が減少も不測の事態に対応できない自給率

20年後に向けた提言の概要

農作物の被害の最小化

保全農法の推進

●土をかき乱さない（不耕起栽培）



●土を覆う（カバークロープ）



●多様性を高める



提案の内容

1:不耕起栽培
2:カバークロープ



	項目	愛知県	農家
保全農法メリット	表土流出防止		◎
	保水力増加	◎	◎
	地温の安定		◎
	作物の生産量の増加	◎	◎
	炭素の貯留が可能	◎	◎
	化学肥料の使用量減少（窒素肥料）	◎	◎
	おいしくなる		◎

提案実現のための具体的な取組

（アクションプラン）と実現可能性

課題①土壌の回復に1,2年かかる（3原則の適応）
課題②設備がない。導入費用が掛かる
課題③土を掘る事が常識・保全農法の知識不足

2024	2025 - 2029	2030	2040
①土壌改善 カバークロープ導入 有機農業の支援	J-クレジット 制度整備 ↑ 土壌センシング 炭素量を簡単に測る	25% 切替 農業教育見直	50% 切替
②設備製作(支援)			
③意識改革(教育)			

波及効果

炭素 1 ton 当たりの削減費用: 100ドル以下
年間平均削減量: 34億トン/CO2 (世界)

不耕起草生により、炭素貯留が可能
愛知 74,000ha ⇒ 34万7800tonCO2/年 (無施肥)

地球の炭素循環モデル

